

産婦人科専門研修プログラム

すべての女性とその家族の幸せを支える医療を提供

募集定員10名

研修期間3年



責任者からのメッセージ

産科婦人科
教授 桂木 真司



将来の進路を選ぶ際には、専門性の追求、家庭との両立、ワークライフバランス、将来のキャリアパスなど、多様な要素を考えることになるでしょう。私たち宮崎大学産婦人科教室には多様な人生観をもつ仲間が集まり、それぞれのペースで成長し、自分らしいキャリアを築いています。私自身は1995年に宮崎医科大学産婦人科に入局し、2021年に第4代教授を拝命しました。順風満帆とは決して言えない歩みの中で、多くの悩みや選択を経験してきたからこそ、「個々の価値観や人生を尊重する教室でありたい」と強く思っています。

プログラムの特徴

当院の産婦人科は、周産期医療、婦人科腫瘍、生殖内分泌、女性ヘルスケア、臨床遺伝医学の領域を担っています。周産期部門では、周産期専門医の指導のもとに母体胎児管理ならびに新生児管理を行っています。産婦人科医が新生児医療のトレーニングを行っている施設は全国でも稀ですが、胎児管理から新生児管理を一連に管理することは、母児にとって極めて有用で、過去20年以上にわたり、全国トップクラスの実績を誇っています。婦人科領域では、婦人科腫瘍専門医の指導下に、悪性腫瘍の集学的加療、腹腔鏡やロボット補助下などあらゆる婦人科手術を行っています。その他、生殖内分泌、女性ヘルスケア、臨床遺伝医学についても学ぶことができます。

連携施設名等

	施設名	指導医	分娩数（2020年度）
基幹施設	宮崎大学医学部附属病院	桂木 真司 教授、他9名	271
連携施設	県立宮崎病院、県立延岡病院、県立日南病院、独立行政法人国立病院機構 都城医療センター、宮崎市郡医師会病院、古賀総合病院、宮崎善仁会病院、ARTレディースクリニックやまうち、鹿児島市立病院、地域医療機能推進機構 船橋中央病院、湘南藤沢徳洲会病院、三重大学医学部附属病院、九州大学医学部附属病院		

取得可能な専門医資格および技能

- 日本産科婦人科学会専門医
- 日本周産期新生児学会 周産期専門医(母体・胎児、新生児)
- 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医
- 日本産科婦人科内視鏡学会 婦人科内視鏡技術認定医
- 日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医
- 日本生殖医学会 生殖医療専門医
- 日本内分泌学会 内分泌代謝専門医
- 日本胎児心臓超音波学会 胎児心臓超音波専門医
- 母体保護法指定医

上記以外にも含め、多岐にわたる分野の専門医資格が習得可能です。

プログラム達成目標

日本専門医機構産婦人科専門医資格に必要な症例はすべて本プログラムで全て経験できます。

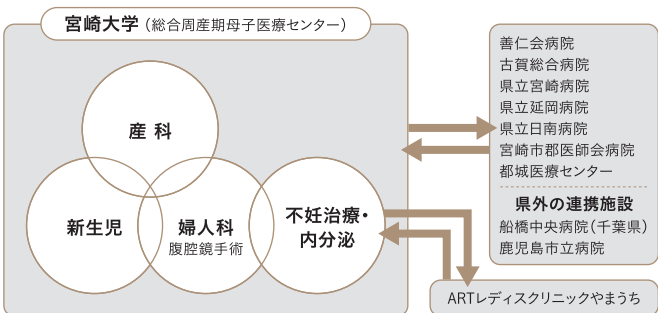
- 経腔分娩
- 帝王切開
- 前置胎盤・常位胎盤早期剥離
- 子宮内容除去術/子宮内膜全面掻爬
- 腔式手術
- 子宮付属器摘出術
- 単純子宮全摘術
- 浸潤がん手術
- 腹腔鏡下手術
- 不妊症治療
- 生殖補助医療における採卵・胚移植
- 思春期/更年期女性医学
- 内分泌療法

専門医取得までのタイムスケジュール

専攻医1年目は大学病院で産科、婦人科、新生児領域をローテーションし、各領域の基本的な知識と手技を身につけます。専攻医2～3年目は県内の関連施設(地域周産期センター)を中心に研修を行います。各施設では基礎的な多くの症例を経験することができます。またこの期間に経験した症例について全国学会での発表、論文の作成を行います。3年間の専門研修終了により、日本専門医機構産婦人科専門医認定試験の受験資格を取得します。

専攻医キャリアデザイン

宮崎大学を中心とした周産期医療の教育に加え、婦人科、生殖医療の研修が可能です。専攻医1年目は宮崎大学で2年目以降は宮崎県内の数か所の施設での研修を行います。



主要症例名と実績数

	症例	実績数
産科	経腔分娩	200
	帝王切開術	100
	選択的帝王切開/緊急帝王切開	
	合併症妊娠	50
	糖代謝異常、自己免疫疾患、甲状腺疾患、心疾患、悪性腫瘍など	
婦人科	産科合併症	50
	多胎・妊娠高血圧症候群・前置胎盤・胎盤早期剥離・胎児疾患など	
	悪性腫瘍手術	50
	広汎子宮全摘術・後腹膜および傍大動脈リンパ節郭清など	
	低侵襲手術	50
	腹腔鏡手術 ロボット支援下手術 子宮鏡手術など	
	腔式手術	20
	腔式子宮全摘術 子宮脱手術 子宮頸部円錐切除術 など	

指導医からのメッセージ

宮崎大学産婦人科講師 藤崎 碧 (2007年 香川大学卒)

「子育てをしながらできることがある」

私は宮崎市出身、香川大学卒、福岡での研修を経て、産婦人科になるなら宮崎に戻った方がいいだろうという先輩からの助言もあり、地元宮崎大学に入局しました。女性に関わりたい、という気持ちを強くしたのは研修医で産婦人科を研修してからです。どの先生も言われるかもしれませんが、生まれる前から新生児期～老年期まで、どのステージにおいても悩みに向き合いサポートできるのが産婦人科医だ、と働き出して改めて感じる事ができています。3人の子育てをしながらの勤務はなかなかハードですが、子育てをしているからこそ寄り添える悩みがあったり、痛みやつらさが同性だからわかってあげられるというのは自分の強みだと自負しています(笑)。私の場合、出産後も大学勤務を継続していたため、産婦人科専門医取得後に、周産期分野、腫瘍分野どちらも専門的に学ぶ機会を得ることができ、自分のペースでキャリアアップできています。診療もチーム制なので、突然の子供の発熱にも柔軟に対応できます。宮崎大学産婦人科には様々な働き方をしている女性医師がおり、将来のロールモデルになる先生がきっといるはずです。女性の強みを十分に発揮できる産婦人科医として、もちろん男性の先生も、女性を支える立場として、ぜひ一緒に働きましょう！

宮崎大学産婦人科助教・病棟医長 後藤 裕磨 (2013年 宮崎大学卒)

「日進月歩の婦人科腫瘍領域で力を発揮！国内留学と育休を経験しています！！」

私は千葉県出身ですが、両親が宮崎出身という縁で、宮崎大学に入学しました。学生の時の実習で腹部外科に興味を持ち、消化器外科や産婦人科を考えていましたが、赤ちゃんの誕生と婦人科手術の両方に携われる産婦人科医になりたいと考えました。初期研修は地元に戻りたいと考え、千葉県がんセンターを基幹病院とする千葉県立病院群のプログラムで研修を行いました。がんセンターでの研修で腹腔鏡手術や婦人科腫瘍に対して大きな興味を持ちましたが、周産期領域の勉強もしっかりしたいと思い、宮崎大学に入局しました。産婦人科医として働く中で、婦人科癌に対する治療を専門にやっていきたいという思いがより強くなりました。産婦人科専門医取得後に、初期研修を行っていた千葉県がんセンターの指導医にお声かけ頂き、国内留学の形で2年半修練を行いました。宮崎に戻ってからは、大学で婦人科癌を中心に診療しています。婦人科腫瘍領域では新しい薬剤がどんどん登場し、患者さんの予後を改善させることができています。また女性医学領域も含めて腹腔鏡やロボットのような低侵襲手術も広がってきています。手術をしたい人も内科的な治療をしたい人も大歓迎です。一緒にやりませんか？

週間スケジュール（宮崎大学医学部附属病院の例）

時間	月	火	水	木	金
朝	合同テレビカンファレンス	周産期カンファレンス	リサーチカンファレンス		婦人科カンファレンス
午前	病棟	手術／病棟	病棟	病棟	手術／病棟
午後	回診	手術／病棟	術前カンファレンス	病棟	手術／病棟

先輩からのメッセージ

県立延岡病院勤務 安永 夏穂 (2020年 宮崎大学卒)

「産婦人科医を目指す先生方へ」

私が産婦人科医を目指すきっかけになったのは、学生実習の分娩でした。はじめて分娩に立ち会ったときは自分が産むわけでもないのに力がいりました。初期研修は大阪で勤務したあと、出身大学の宮崎に戻りました。初めての帝王切開では、妊婦さんが退院するときに、先生に手術してもらえたのよと写真を一緒に撮らせてもらいました。びくびくしながらの帝王切開で私なんか手術して大丈夫なのだろうかと思いながらだったので、ものすごく感動したことを覚えています。NICUで早産の児の蘇生をしたり、超音波をしたり、採血一つも緊張しています。婦人科では、手術、放射線、緩和ケア。がん患者との向き合い方、治療方法を学んでいます。産婦人科は、一般的に、夜呼ばれるよね・・・、いそがしそうだね・・・、と声を聞くことが多いです。でも、働いてみると、産婦人科より夜働いている科はいっぱいあります(笑)ただ、分娩は夜でも待ってくれないし、卵巣腫瘍茎捻転は痛くて朝まで待てなかったりします。私たちが夜働くのは患者さんのためです。夜辛くても、その分やりがいにあふれているのが産婦人科だと私はおもいます。熱い情熱はなくても大丈夫です。少しでも興味があれば一緒に働いてみませんか？

ココに注目！

宮崎大学産婦人科准教授 土井 宏太郎 (2000年 鹿児島大学卒)

産婦人科は、人生のあらゆるステージに関わる唯一の診療科です。妊娠・出産というかけがえのない瞬間を支えるだけでなく、思春期から老年期まで、女性の一生を通して健康と向き合います。次の世代へ繋ぐ、命のリレーを育む、そんなやりがいのある分野です。宮崎大学産婦人科は、決して大きな教室ではありません。最先端の設備や派手な実績よりも、「目の前の患者さんに誠実に向き合うこと」を大切にしてきました。派手さはなくとも、一人ひとりが日々の診療と学びを丁寧に積み重ねることで、地域に根ざした確かな医療を築いています。その積み重ねが、私たちの誇りであり、宮崎から世界に誇れる医療につながっています。私たちは、地域の女性とその家族が本当に必要としている医療を提供できる医師を育てたいと考えています。華やかな経歴よりも、誠実さと成長への意欲を大切にします。与えられた機会を一つひとつ大切にしながら、確かな力を身につけ、自分らしい道を見つけてください。私たちは、その一步一步を全力で応援します。宮崎にゆかりのある方も、そうでない方も、年齢や経験は問いません。ここには、互いを尊重しながら学び合える温かな仲間がいます。ぜひ私たちと一緒に、産婦人科医としての第一歩を踏み出しましょう。そして、すべての女性とその家族の幸せな人生を支える医療を、共に創っていきましょう。

お問い合わせ先

担当：平田 徹

T E L：0985-85-0988
F A X：0985-85-6149
e-mail：toru_hirata@med.miyazaki-u.ac.jp

産婦人科HP

http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/obgyn/

